

第4回八尾市立病院改革プラン評価委員会(議事概要)

<1> 日 時:平成23年7月8日(金) 午後2時~午後3時20分

<2> 場 所:八尾市立病院 大会議室1

<3> 出席者

委員長	阪口 明善	(病院事業管理者)
副委員長	佐々木 洋	(病院長)
委員	貴島 秀樹	(八尾市医師会副会長)
	谷田 一久	(株式会社ホスピタルマネジメント研究所代表取締役)
	西浦 昭夫	(元八尾市代表監査委員)
	兒玉 憲	(特命院長)
	星田 四朗	(副院長)
	高瀬 俊夫	(副院長 兼 診療局長)
	斉藤 せつ子	(看護部長)
	福田 一成	(事務局長)
	門井 洋二	(八尾医療 PFI 株式会社ゼネラルマネージャー)

<4> 次第

1. 平成22年度の業務状況、並びに八尾市立病院改革プランの実施状況について
2. 次期計画について
3. その他

[資料]

1. 八尾市立病院改革プラン評価委員会設置要綱
2. 八尾市立病院の業務状況(平成22年度) ……資料1
3. 八尾市立病院改革プランの実施状況(平成22年度) ……資料2
4. 八尾市立病院PFI事業の検証を踏まえた取り組み結果 ……資料3
5. 次期計画策定について ……資料4

<5> 質疑応答・意見交換

(委員) 収益部会では、診療報酬改定の後押しもあり、概ね目標を達成し、A評価を多くの項目でつけることができた。しかし、医療秘書の人員確保や分娩件数など課題は残っている。改革プラン3年目では目標を達成させたい。

(委員) 改革プランに比べ、費用を3億円抑えられたことは、費用部会の活動が一定の効果をだしていると評価している。しかし、改革プラン実施状況でC評価がついている項目が費用部会の「後発医薬品」である。後発医薬品は「品目数」「金額」ともに当初の目標が達成できていない。経営の健全化という視点で考えれば、医薬品の購入費が削減できても、収益に結びつかない場合があり、平成23年度も引き続き、費用削減と収益とのバランスを見ながら、目標達成に向けた取り組みを進めたい。

(委員) 平成22年度の純損失、資金剰余額が良化していることから、SPC職員を含め病院関係者が一丸となって改革プランに取り組んでいることがわかり評価できる。しかし、平成22年度は診療報酬の改定があったが、診療報酬の改定が毎年あるわけではない。また、費用削減についても毎年大きく削減できるわけではない。このような状況から、必ずしも危機的状況から脱したと安易に考えてはいけない。今年度の取り組みは評価するが、今後とも箍を緩めず、改善すべきところは改善して進んでいかなければならない。

病院経営の基礎基盤は患者数の安定的な確保だと考える。しかし、紹介患者率は50%前後で推移している。また、近鉄沿線の外側の外来・入院患者数が少ない。安定経営のため、ターゲットをしぼって患者数を増やす取り組みを行ってほしい。

費用削減については、「診療体制」「サービス体制」等が拡大し過ぎると、そのことが将来にわたっての費用増につながることを懸念されるので、投資をする際には、将来的に増える可能性がある費用のことを念頭に置き検討をするなど、改革を進めてほしい。

費用削減の中であがっている「看護師の2交代勤務」について、改革プラン3年目に入るが進んでいない理由を教えてください。

(委員) 現在、救急外来では2交代勤務を行っている。課題は病棟での2交代勤務の運用である。労働条件にかかわることなので、労働組合と協議をかさねている。すべての病棟で一斉に運用することは難しいが、2交代勤務が可能な病棟から運用を開始するように労働組合と協議している。病棟によっては年末年始に2交代で行っている病棟がある。

(委員) 改革プランでは医業収支を均衡させることが目標。結果だけを見れば、平成23年度計画は前倒しで達成している。八尾市立病院はすでに改革を進め、違う次元、次のステップをあげる段階にきている。過去の純損失・経常利益の推移を見たときに、あと少しで経常収支が均衡する。そのためのあと2億5千万円をどうやって良化させるかは職員の皆で考えることだが、このまま一気に経常収支の黒字化に向け、「突き抜ける」ということが大切である。ある意味、経営としては、「勢いにのる」ということが重要で、一度突き抜けてしまうと、そういう状況は自然と身につくものである。

それと、「後発医薬品」の項目がC評価となっているが、取り組みが何もできていないか

らC評価という結果になっているのではないと思う。過去 2 年を見たとき、改革が進まないところには、それなりの理由があり、その理由が正当な理由であればC評価でも許容されるのではないか。

(委員)「後発医薬品」のC評価をB評価にするために、後発品への切り替えを進めることで、結果的に収益が下がるが、可能な限り取り組みは進めている。また、現在先発品を使用しているものは、医療安全の観点や、薬品の効能の関係から、後発品を採用しない方がいいと考えるものがほとんどである。そういう意味でも、評価としてはC評価になるが、現実には必然的なC評価だと認識している。

(委員)次期計画を作成するときには、この目標・評価の仕方を考えなければいけない。既に結果が出た項目に対しては、取り組み終了として、ABC評価はつけずに「－」にしてしまう方法もある。そもそも、こういう形で評価するに値しない項目なのかもしれない。

(委員)一般の中小病院では、まだまだ診療報酬は厳しい状態である。

電子カルテの更新等で減価償却費が増えると思うが経常収支をプラスにするようもっとがんばってほしい。

医師に関しても充実してきている。あとは、呼吸器内科、神経内科の医師を確保していただきたい。

病病連携について、資料では市内病院事務長会議で協議しているとあるが、医師会には、病院部会がある。医師会も共に協議すれば様々な話ができるのではないか。

(副委員長)当院としては、病病連携は八尾市医師会の病院部会を中心に考えている。病病連携の基本は、行政主導ではなく、やはり医師会の病院部会が主導であると認識しており、8月には病院部会主導の病院長会議を開催する予定である。

(委員)総合医療情報システムの更新は完了しているのか。病診連携のネットワークをつくることを進めて行ってほしい。医師会としても情報企画委員会があるので連携してやっていきたい。

(委員)更新は終わっている。システムが安定したところで、病診連携のシステムを検討していく予定である。

(委員)地域医療支援病院を目指すところがあるが、現在紹介率、逆紹介率はどうなっているのか。

(副委員長)今年の2月からは逆紹介率も60%を超え、このまま平成23年度は維持するよう取り組んでいる。来年度には申請できるように取り組みをしている。

(委員)未収金防止のとりくみについて金額等は把握しているのか。

(委員)徴収率は当年度分で 98.9%である。過年度の未収金については、SPCを通じて医事担当が電話等で督促を行っている。一部は職員が個別訪問を行った。
転居している場合が多く、古い分に関しては回収が困難である。

(委員)患者数が減っている診療科がある。整形外科は入院患者が約 1800 人減っている。
外来の皮膚科も約 1000 人減っているが理由は。

(副委員長)当院は救急の骨折患者、腰、膝を主として治療し、他院は他の疾患を治療するという形で、整形外科領域は、徳洲会や医真会と住み分けのようなものができているようである。整形外科の医師は少なくはないので、もう少し治療実績が増えればと考えている。
皮膚科は以前、非常勤の医師も外来を行っていたが、現在は医師 1 人で行っている。

(委員)災害医療センターとあるが災害拠点病院にはならないのか。

(委員)大阪府の災害拠点病院にはなっていない。八尾市の災害医療センターという位置づけになっている。中河内圏では大阪府立中河内救命救急センターと東大阪市立総合病院が災害拠点病院になっている。大阪府によって決定されるものであり、当院は市の災害医療センターとしての位置づけで、災害時の対応にあたることになっている。

(委員)大阪府がん診療拠点病院になったことや、救急医療の機能、高度医療の機能等、医療機能の体制に合わせた病院名に変更することを考えてみてはどうか。

(副委員長)2 年前、地方公営企業法全部適用に移行した時に、名称の変更について議論したことがある。しかし、病院が設置している看板等の表記を全て改めることになり、高額な費用もかかることから、その時はもう少し様子を見ようという結論になった。

(委員)たくさんの機能をもった病院なので、名称変更は一つの手段である。八尾市立病院に市民・患者の目を向けさせるようなことをやらなければならないのではないのか。

(委員)委員の指摘は当院のPRのあり方に対するご意見として、今後の運営の中で考慮していきたい。

PR については、現在力を入れている。SPCの協力のもと、市立病院だよりとして、病院の機能面を紹介するページを昨年から掲載している。今年度も引き続き掲載していく。この成果として、年に数回行っている市立病院公開講座の参加者が増加していることがある。これからも病院の機能面を積極的にPRすることを考えている。

さらに、日頃なかなか病院に目を向けられない方にも当院を知っていただけるよう努力する。

病院名の変更も 1 案ではあるが、このような広報活動を中心に認知度をあげていきたく考えている。とれる手段は積極的にとっていきたい。

(委員) 急性期を行う 400～500 床の他病院は総じて収益が上がっている。ただ診療報酬がアップしたからだけではない。診療報酬アップ分と病院の努力分とで、それぞれどれくらいか見積もることも大事である。

いずれにしても、前倒しで計画数値を達成しているので、このまま勢いで突き抜けて平成 15 年以來の経常収支黒字を達成させてほしい。

(委員) 改革プランでは収支を問題としてきた。それを平成 23 年度には達成できると考えている。次期計画にも収支は大事だが、同時に八尾市立病院の存在意義であったり、八尾市立病院らしさも求められる。

市民はこの病院でどれだけ素晴らしいことが行われているか知らないかもしれない。だとすると、いかに知らせていくか。また、それが何なのかを探さなければいけない。医療の質・量を含め八尾市立病院らしさを次期計画の中に指標として示してはどうかと思う。

(委員) 難しいと思うが、収支のバランス、対費用効果を可能な限り数値で検証できる計画をたててほしい。

(委員) 将来、どういう病院を目指すのか中長期的に協議してほしい。また、経営計画という名称は、夢のある名前にしたほうがいい。

(委員) 他市でも計画を前倒しに達成してきてはいるが八尾市立病院ほどの改善ではない。

そのため、前倒しで計画が達成でき、今後どうするかという段階である。

資料からSPCとの協力関係、信頼関係がしっかりできていることがうかがえる。あとは収益と費用を結びつけるところにSPCの力を発揮できればより一層好循環になっていくと思う。企業のノウハウを公立病院に植え付ける役割をしてもらいたい。

(副委員長) 改革プランは順調にきているとお褒めをいただき安心した。

病院は医療の質と経営の安定化・健全化の両輪で成っている。もっと突き詰めれば、「良質」「高度」「安全」な医療をすると経営健全化するというのが持論である。平成 22 年度はこのような結果となり経営の安定化は図られつつあるので、もっともっと医療の質、高度な医療、安全な医療に邁進してまいりたい。

今回の経営の改善は診療報酬の改定が要因だと言われているが、今後は診療報酬改定がなくても、経営収支がここまで改善するということを示したいと思う。そのためには、費用削減とういこともあるが医療の質をあげて、高度な医療、安全な医療を提供し、多くの患者が当院へ来ていただくことが最も重要である。

改革プランは順調にきているが、病院自体の改革、病院の飛躍ははじまったばかりである。これからもっと市民に喜んでいただける病院にできると思っている。

(委員長) 2 年目についても、概ね計画どおりに進んだので、本日いただいた貴重なご意見を取り入れながら、最終年度もしっかりと取り組んでいくこととしたい。また、次期計画の策定にも力を入れていきたい。引き続きのご協力をお願いしたい。(議事終了)